

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 280 号	氏名	平野 尚史
学位審査委員	主査 林 善彦 副査 池田 通 副査 村田比呂司		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価 痛みの伝導路には2つの経路がある。ひとつは弁別系、他は情動系である。後者の中枢は前帯状回であり、本研究では前帯状回に注目して針鎮痛の内因性機序を解析したものである。研究の目的は十分に妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価 鎮痛の機能的解析に通常用いられているラットを実験動物とした研究である。針刺激部位としては、三叉神経系の疼痛抑制に有効な合谷を選定している。前帯状回から中脳中心灰白質への下行性の投射は電気生理学的な衝突試験によって確認している。さらに、前帯状回におけるニューロン活動の記録部位は神経組織学的に解析している。これらの手法は基本的な解析法として確立している。</p> <p>3. 解析・考察の評価 本研究では、針刺激はPAGへ投射される大多数の下行性ACCXニューロンの発火活動を抑制することを明らかにした。従って針刺激により引き起こされるACCXニューロン活動の抑制は下行性PAGニューロンの活動の脱抑制を誘発するとの結論である。この脱抑制はPAG-NRM-脊髄を通る下行性抑制機構を亢進させると解釈される。ナロキソンは針刺激により生じたACCXニューロン反応に影響しなかった。つまり内在性オピオイドがACCXにおいて、針刺激によるニューロン活動の変化に関与しないことを示唆している。針鎮痛では内在性オピオイドは脳幹で作用していると推察されACCXを含む上位中枢では関与していないと推察される。これらの所見はいままで報告が無かったものであり、本研究が針鎮痛を含むさらなる鎮痛機構解明に貢献することは明らかである。</p> <p>以上のように本論文は鎮痛の生理学的研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			